

想いをつなげる 北明治の輪

新型コロナウイルス感染症の影響により、町内サロン等は「開催」と「中止」が繰り返されるなか、北明治福祉委員会では、「今までのつながりを途切れさせないために、何かできないか？」と考え実施したのが、集まらなくてもできる「はがきを活用した交流！」でした。

町内サロンに毎週参加していた障がい者支援施設（ぬくもりの家・まるくてワークス）に、はがきの作成ができるかどうかを確認したところ、使い終わった牛乳パックを活用した「紙すきはがき」の提案がありました。作成は非常に細かく、何日もかかる工程ですが、200枚ものはがきを手作りしてもらいました。

そのはがきには、福祉学習の一環として、年に何回かサロンに参加していた安城中部小学校の3年生がコメントを書き、サロンに参加している高齢者に郵送されました。

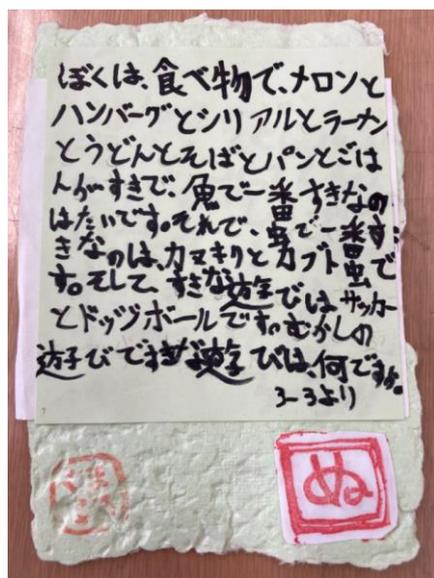


▲紙すきはがきをお渡ししている様子



▲色とりどりの紙すきはがき

①小学生から高齢者に送られた手紙の一例



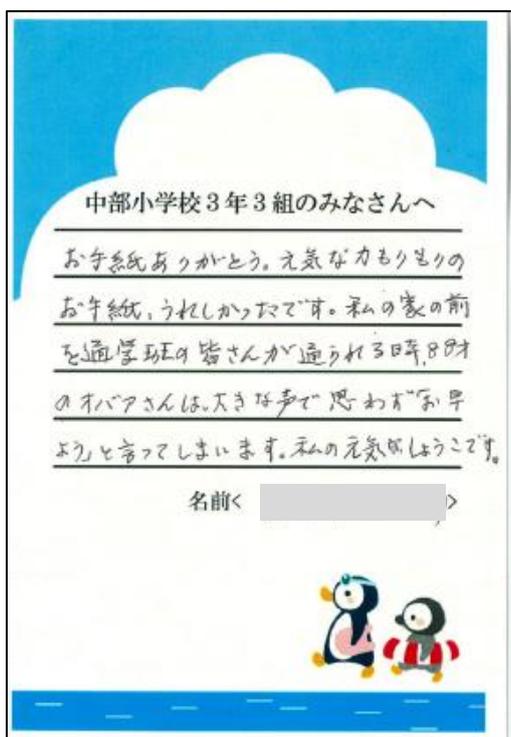
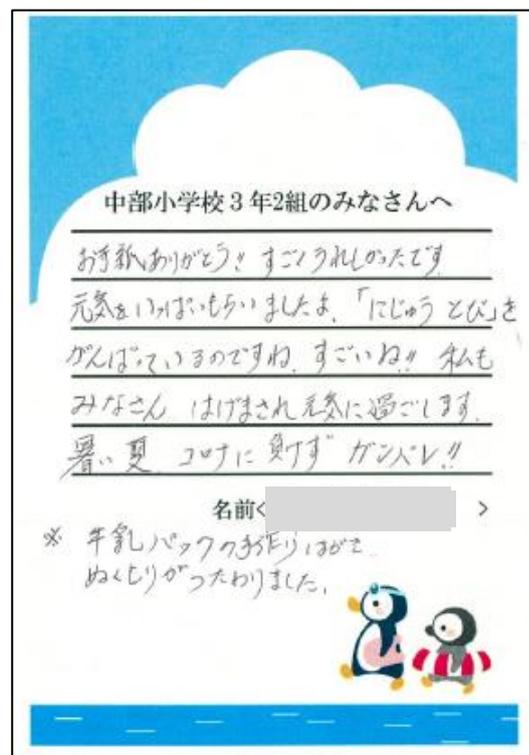
安城中部小学校の3年生からは、「食べ物は〇〇が好きです」、「好きな遊びは〇〇です」などのコメントや、「コロナで大変だけど、お元気ですか」など、高齢者の皆様を気遣うコメントが書かれていました。



②高齢者から小学生への返信はがき

小学生が書いたはがきを、高齢者のもとに郵送する際の切手は、通常の切手ではなく、時節を感じられる切手を貼り、はがきを見る高齢者が季節や喜びを感じられるような工夫をしました。

はがきを読んだ高齢者からは、「思いがけないお手紙をいただき、ありがとうございました」、「みなさんも元気でがんばってください」などのコメントが書かれており、高齢者から小学生に返信されました。



これまでのつながり続けるために、それぞれができる強みを活かして「想いを届ける・想いを受け取る」ことによって、喜びや嬉しさを感じ、この状況を何とか乗り切ろうという力につながっています。